

事業群評価調書（令和7年度実施）

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 学芸文化課	岩尾 哲郎
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)		
事業群名	⑥ 創造性や独創性など豊かな人間性を育てる子どもたちの文化芸術活動の推進	令和6年度事業費(千円)	※下記「2. 令和6年度取組実績」の事業費(R6実績)の合計額	33,854

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)

子どもたちの文化力の向上と裾野の拡大を図るため、市町教育委員会や中学校文化連盟、高等学校文化連盟と連携し、中・高の文化芸術活動の充実と活性化に取り組みます。また、子どもたちの豊かな人間性を育むため、鑑賞や成果発表の機会を提供します。

(取組項目)

i) 中高文化部活動への支援や研修機会の実施
ii) 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供

事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	「子ども県展」への応募率	目標値①		75.0%以上	75.0%以上維持	75.0%以上維持	75.0%以上維持	75.0%以上維持	75.0%以上維持(R7)	
		実績値②	74.7%(R元)	79.6%	82.0%	83.2%	86.5%		進捗状況	
		達成率②/①		100%	100%	100%	100%		順調	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	中学校における休日の文化部活動を地域へ移行する体制を構築した市町数	目標値①				2市町	5市町	21市町	21市町(R7)	
		実績値②	1市町(R4)			2市町	13市町		進捗状況	
		達成率②/①				100%	260%		順調	
<p>「子ども県展」は、市町教育委員会及び県造形教育研究会と連携し、児童生徒の図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創作の喜びを感じさせ、また、作品の鑑賞を通して、表現力の向上や豊かな情操の育成を図ることを目的として、県内の小・中学校及び特別支援学校小・中学部の児童生徒を対象に作品を募集し、優秀作品の表彰及び作品展を開催している。</p> <p>令和6年度は、80,000人を超える応募があった。平成17年度に県の主催事業となつて以降、募集方法の改善や、作品づくりの授業への組込みなどを推進してきた結果、令和6年度は前年度を上回る86.5%の応募率となった。ここ数年は、80%を超える応募率を維持しており、引き続き、参加の働きかけなどを行っていく。</p> <p>また、文化部活動地域移行推進事業は、県内の中学生が、学校の部活動に代わりうる持続可能な文化活動の機会を身近な地域で確保できる体制を整備することを目的として、休日の文化部活動の段階的な地域移行を推進している市町に対して支援を行っている。</p> <p>令和7年度までに全市町の体制整備を目標としており、令和6年度は13市町が推進計画、ロードマップ等を策定し、地域移行の体制を構築した。引き続き、市町と連携して部活動地域移行を進めていく。</p>										

2. 令和6年度取組実績（令和7年度新規・補正事業は参考記載）

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位：千円）			事業概要 令和6年度事業内容及び実施状況 （令和7年度新規・補正事業は事業内容）	指標（上段：活動指標、下段：成果指標）				令和6年度事業の成果等	
				R5実績	うち 一般財源	人件費 （参考）		主な指標	R5目標	R5実績	達成率		
				R6実績					R6目標	R6実績			
				R7計画					R7目標				
				事業実施の根拠法令等									
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業			他の評価 対象事業 （公共、研究等）				
所管課（室）名			事業対象										
取組項目 i	○	1	中学校・高等学校文化活動推進事業費	22,623	22,623	6,128	●事業内容 中学校・高等学校の文化活動の推進と裾野の拡大を図ることを目的として、積極的に活動する部活動等を指定し、その活動に対する助成を行うとともに、県総合文化祭及び全国総合文化祭への参加経費等を補助する事業。 ●実施状況 中学校20クラブ、高等学校24クラブに対して助成を行い、強化指定校である中学校9部、高等学校22部が九州大会以上に出場した。また、県総合文化祭開催経費や、全国総合文化祭の参加費用の補助等を行った。	【活動指標】 文化活動推進校（中・高）指定種目に指定した部活動数（部）	46	46	100%	●事業の成果 ・中学校・高等学校の文化活動推進校の指定による育成支援や、県総合文化祭の開催、全国総合文化祭への参加支援などの補助事業を通して、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟との連携がより一層深まり、各校における文化活動の活性化が促進された。 ●事業群の目標達成への寄与 ・文化活動推進指定校は、九州大会や全国大会への出場を果たし、各大会においても優れた成績を上げるなど、生徒たちの文化活動に対する意欲や創造性の向上に寄与した。	
				22,170	22,170	6,308			44	44	100%		
				21,351	21,351	4,727			44				
				—				【成果指標】 強化指定種目（中・高）のうち九州大会以上に出場した部活動の割合（％）	86	78	90%		
			H18-	—					86	86	100%		
			学芸文化課	—	—	—		87					
	○	2	文化部活動地域移行推進事業費	801	16	3,830	●事業内容 本県中学生が、学校の部活動に代わりうる持続可能な文化活動の機会を身近な地域で確保できるよう、休日の文化部活動の段階的な地域移行を推進している市町に支援を行う事業。 ●実施状況 2回の地域移行検討会を行った。また、市町による実証事業を行い、休日に学校と地域団体とが連携した地域クラブ活動を実施した。	【活動指標】 在り方検討委員会及び長崎県文化部活動の地域移行検討会の開催回数（回）	5	5	100%	●事業の成果 ・地域移行検討会の協議内容を参考にして、各市町が推進計画、ロードマップ等の策定に取組み、地域移行推進のための体制を構築した。 ・実証事業における外部指導者による専門的かつ実践的な指導が行われたことで、子どもたちの文化活動への関心や意欲が高まり、文化活動の充実につながった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・文化部活動地域移行推進のための体制整備を行うことにより、子どもたちの文化活動の機会が確保され、文化芸術活動の推進に寄与した。	
				909	265	3,942			2	2	100%		
				3,608	469	3,939			2				
				—				【成果指標】 中学校における休日の文化部活動を地域へ移行する体制を構築した市町数（市町）	2	2	100%		
			R5-7	—					5	13	260%		
			学芸文化課	—	—	—		21					
	3		部活動指導員配置事業費	845	845	6,128	●事業内容 教員の超過勤務の是正や負担軽減及び専門的かつ効果的な指導ができる人員の確保に取り組む学校に対して指導員を配置し、支援を行う事業。 ●実施状況 県立高等学校に2名、町立学校に1名配置した。県立高等学校においては、指導員の配置時間と教員の負担軽減等の効果についての状況確認を行い、年度末には指導員の配置効果等に係るアンケート調査を実施した。町立学校においても、前年度と比較し、教員の部活動従事時間の削減率について実績評価を行った。	【活動指標】 文化部活動指導員の配置数（人）	2	2	100%	●事業の成果 ・配置校では、教員の部活動に従事する時間が大幅に削減され、これにより教員が担うべき業務により多くの時間を充てることが可能となった。加えて、部活動指導員が専門的な実技指導を行うことにより、生徒に対して質の高い指導が提供されたとともに、教員の負担軽減にもつながり、指導業務の効率化が図られた。	
				978	922	6,308			3	3	100%		
				1,968	872	3,939			3				
				—				【活動指標】 文化部活動指導員の配置時間以上に教員が部活動に従事する時間数を削減した学校の割合（％）	100	100	100%		
									100	100	100%		
									100				
								【成果指標】 配置校における当該部活動担当教員のうち負担を軽減できたと感じた教員の割合（％）	100	100	100%		
			R2-	—					100	100	100%		
			学芸文化課	—	—	—		100					

取組 項目 ii	○	4	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業費	3,111	3,111	4,596	●事業内容 子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創造の喜びを味わわせ、表現力の向上及び学習成果の発表を通して豊かな情操の育成を図るための作品展を開催する事業。 ●実施状況 県内小・中学校の児童・生徒を対象とする作品を募集し、計87,183名の参加があった。また、優秀な作品の表彰及び展示（総合展・巡回展）を2市1町で行った。	【活動指標】 子ども県展参加校数の割合（％）	100	89	89%	●事業の成果 ・「子ども県展」に向けた作品制作を通じて、子どもたちの表現力を養うとともに、図画工作や美術に対する意欲・関心の向上や、芸術的な感性・創造力を育むことができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・多くの子どもたちに表現することの楽しさや達成感を味わわせることを通して、豊かな情操の育成を図ることができ、目標達成に寄与した。	
				2,684	2,684	4,731			100	88	88%		
				2,231	2,231	3,939			100				
			H18-	—				【成果指標】	77,082	85,503	110%		
			学芸文化課	—	—	—			75,606	87,183	115%		
	○	5	子ども舞台芸術鑑賞事業費	5,013	5,013	4,596	●事業内容 県内の子どもたちの豊かな感性や情操を育み、文化活動の振興を図るため、優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する事業。 ●実施状況 9市町で音楽4公演、古典芸能4公演、児童劇9公演の計17公演が開催され、鑑賞者数は計3,484人であった。	【活動指標】 青少年劇場公演数（公演）	16	16	100%	●事業の成果 ・質の高い舞台芸術を子どもたちに鑑賞させる機会を提供することで、伝統文化への理解を深めるとともに芸術に触れる体験を通じて、豊かな感性や情操を育むことができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・舞台芸術の鑑賞機会を提供することで、多くの子どもたちが文化に触れることの喜びを感じることができ、文化芸術活動の充実に寄与した。	
				2,556	2,556	4,731			17	17	100%		
				2,747	2,747	3,152			10				
				社会教育法					【成果指標】 -R5：青少年劇場鑑賞者数（人）	3,929	3,913		99%
			H18-R8							97	93		95%
			学芸文化課	—	—	—		R6-：文化にもっと触れたいと感じた子どもの割合（％）	97				
	○	6	ながさき”若い芽”のコンサート開催費	2,357	2,357	4,596	●事業内容 子どもたちの豊かな心の育成と青少年の文化活動の振興を図ることを目的として、ながさき“若い芽”のコンサートを開催し、クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会を提供する事業。 ●実施状況 8月にオーディション、9月と10月にコンサートを行った。応募総数は141名であり、9月のコンサートには8名、10月のコンサートには15名が出演した。	【活動指標】 コンサート開催回数（回）	1	1	100%	●事業の成果 ・クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会としてのコンサートを開催することで、子どもたちの豊かな心の育成と文化芸術活動に取り組む人材の育成が図られた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・成果指標目標値には届かなかったが、多くの子どもたちに発表の機会や地域文化との結びつきを深める貴重な機会を提供したことで、音楽を通じた豊かな情操の育成や次世代の文化芸術活動に取り組む人材の育成に寄与した。	
				4,557	4,557	4,731			2	2	100%		
				3,362	3,362	3,939			1				
				社会教育法					【成果指標】	160	145		90%
			S62-							163	141		86%
	学芸文化課	—	—	—	オーディション応募者数（人）	166							
	○	7	地域社会におけるこどもの文化芸術活動推進事業費				●事業内容 県内の子どもたちが文化活動への関心を高め、文化芸術に親しむ機会を創出することを目的として、地域における文化芸術活動の推進を図る事業。	【活動指標】 こども文化ミーティングの開催回数（通算/回）				—	
				1,844	1,844	3,939			1				
—				【成果指標】									
(R7新規)R7-9													
学芸文化課	—	—	—	幼児、小学生、中学生	新たに文化芸術活動の場を確保した子どもの数（人）	340							

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i 中高文化部活動への支援や研修会の実施	
●実績の検証及び解決すべき課題 中高文化部活動は、全国大会において上位入賞や連続出場を果たすなど優れた成績を収めており、中高文化部活動への支援や研修会の実施が成果として表れている。今後も、県内の中高文化部活動の子どもたちが全国レベルで一層活躍することを目指し、また、更なる文化活動の推進と裾野の拡大を図るため、継続的に支援を行っていく必要がある。 文化部活動地域移行は、段階的な地域移行を進める市町を支援することで、本県中学生の学校の部活動に代わりうる持続可能な文化活動の機会の確保や、教職員の負担軽減に寄与している。引き続き、地域の指導者の確保や育成などに取り組み、地域の文化環境の整備推進を図る必要がある。	●課題解決に向けた方向性 中高文化部活動においては、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟と連携し、引き続き、積極的に活動する部活動の活動経費の助成や、県総合文化祭開催及び全国総合文化祭の参加費等の補助を行っていくことで、子どもたちの文化活動機会の充実を図る。 文化部活動地域移行においては、文化活動の指導者を身近な地域で確保するため、指導者等人材リストの整備、活用の強化を行っていくとともに指導者への講習会を実施することで、指導者の質と量の確保を図っていく。また、国の実証事業を活用して、部活動地域移行の推進を図り、地域移行を進める市町に対する支援をより強化していく。
ii 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供	
●実績の検証及び解決すべき課題 舞台芸術鑑賞事業は、離島地域を含む多くの子どもたちに舞台芸術の鑑賞機会を提供することで、豊かな感性や情操を育むことに寄与している。そのため、子どもたちが優れた舞台芸術に直接触れることのできる機会を確保していく必要がある。 「子ども県展」は、県内小・中学校の図画工作・美術における学習活動の成果を発表する機会として広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっている。県内小・中学校の参加率は85%を超え、児童生徒の創作意欲や図画工作・美術に対する関心の向上に寄与することができている。その一方で、80,000人以上の参加にかかる膨大な集計業務への効果的な手法を講じることや特別支援学校の児童生徒の参加数を伸ばしていくことが必要である。 「ながさき“若い芽”のコンサート」は、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。生涯にわたって音楽に親しむ人材を育成し、更なる文化活動の活性化を図る。	●課題解決に向けた方向性 舞台芸術鑑賞事業は、学校間の合同開催や近隣住民の参加等を促すことで、多くの子どもたちや地域住民に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、文化芸術活動の充実を図る。 「子ども県展」は、市町教育委員会及び県造形教育研究会と連携し、集計業務の改善や特別支援学校の参加拡大を図りながら、引き続き、子どもたちの図画工作・美術の意欲・関心を高めていくとともに、学習活動の成果を発表する機会を提供する。 「ながさき“若い芽”のコンサート」は、地域の文化団体や、大人を対象としたコンサート等と連携していくことで、世代を超えた貴重な交流の機会を確保し、子どもたちの技術や表現力の向上に寄与するとともに、引き続き、子どもたちの感性と豊かな心を育むため、音楽発表の機会を提供する。

4. 令和7年度見直し内容及び令和8年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和7年度事業の実施にあたり見直した内容	令和8年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目ⅰ	○	1	中学校・高等学校文化活動推進事業費	ながさきピース文化祭2025や中学校文化部活動の地域移行を契機として、児童生徒の更なる文化芸術活動推進が図られるよう、県高等学校総合文化祭や県中学校総合文化祭等の改善、充実を行った。	②	高等学校においては、引き続き地域や市町・学校の枠を越えた文化活動の推進を図り、県総合文化祭開催の支援や専門部の設置など、文化活動の活性化を図る。 中学校においては、平成30年度全国中学校総合文化祭長崎大会の成果を継承し、引き続き文化活動の充実と活性化及び生徒の文化に対する意欲向上を継続的に図る。 また、積極的に活動する部活動の活動を支援するとともに、中学校においては、文化部活動の地域移行の在り方に即した体制づくりを支援・推進していく。	改善
			H18-				
			学芸文化課				
	○	2	文化部活動地域移行推進事業費	令和7年度までに県内すべての市町が計画策定を完了できるよう、引き続き検討会を開催し、県内外の先進事例や課題について情報共有を行い、休日の地域移行完了に向けて人材リストの活用や講習会を継続し、持続可能な地域移行の体制整備を推進していくこととした。	②⑤⑧	当初、部活動の地域移行については、国の方針にて令和7年度までを「改革推進期間」と定められていたため、令和7年度を本事業の終期として取組を進めてきた。 令和6年度においては、地域移行に取り組んだ市町の事例が見られる一方で、地域における受け皿となる団体や指導者の確保、活動場所の調整、財政的支援のあり方等多くの課題も明らかとなった。 全国的な取組の進捗や課題を基に、令和7年5月の国の部活動改革実行会議において、令和8年度から令和13年度までの地域移行の方向性について提言が出され、今後、国において令和8年度以降の方針が示される予定である。本県においても、今後の国の具体的な動向を踏まえながら、地域移行の取組みの推進について引き続き検討していく。	改善
			R5-7				
			学芸文化課				

取組項目 i	3	部活動指導員配置事業費	文化部活動指導員の効果的な活用事例の情報収集を行い、学校や各市町に対して周知を図ることで、配置の検討につなげることとした。	②⑤	学校の文化部活動の体制や文化部活動指導員の配置にかかる課題について改めて分析するとともに、その効果や必要性について各種会議等の機会を捉え市町や学校へ周知し理解を深めるよう努める。学校や市町のニーズの把握を行い、必要に応じて効果的な活用方法や国庫補助を活用した配置について検討を進めていく。	拡充
		R2-				
		学芸文化課				
	○ 4	魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業費	子どもたちのさらなる文化活動の活性化や裾野の拡大を図るため、展示数の少ない特別支援学校への参加のよびかけを強化するとともに、県造形教育研究会と連携し、膨大な集計業務のうち最も手間のかかる作業をシステム化するなど効率化を図り、事業における作業改善に取り組むこととした。	②	引き続き、子どもたちが図画工作・美術の作品を発表する機会を提供することにより、子どもたちの図画工作・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操の育成を図る。また、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、より多くの子どもたちが参加できるよう働きかけるとともに、応募作品の整理・集計などの業務の負担軽減及び効率化を図る。	改善
		H18-				
		学芸文化課				
	○ 5	子ども舞台芸術鑑賞事業費	優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するため、全世代が楽しめる演目の選定を行った。併せて、体験型のプログラムの提供を継続して行うことで、文化芸術への理解を深め、豊かな心の育成を図ることとした。	②	優れた舞台芸術の鑑賞機会を引き続き提供することにより、伝統・文化に対する理解を深め、子どもたちの豊かな感性や情操を育み、より一層の文化活動の振興を図る。しかしながら、当該事業は令和8年度をもって終了予定であることから、令和9年度を見据えた文化庁事業等の代替事業の活用についても検討し、関係機関と連携をとりながら、引き続き子どもたちが質の高い文化芸術に触れる機会の確保を図っていく。	改善
		H18-R8				
		学芸文化課				
	○ 6	ながさき”若い芽”のコンサート開催費	「ながさきピース文化祭2025」の応援事業として、音楽を通じて平和の大切さを発信するとともに、生涯にわたって音楽に親しむ人材を育成することで、さらなる文化活動の活性化を図る。また、地域の文化団体や、大人を対象としたコンサート等と連携していくことで、世代を超えた貴重な交流の機会を確保し、感性や豊かな心の育成を図ることとした。	②	子どもたちの音楽の発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す子どもたちの目標の一つとなっていることから、県文化団体協議会等と連携して、引き続き子どもたちの発表の機会を確保していく。また、SNS等も活用しながら効果的・効率的な広報活動に注力し、オーディション応募者のさらなる確保を図っていく。	改善
		S62-				
		学芸文化課				
取組項目 ii	○ 7	地域社会におけるこどもの文化芸術活動推進事業費	R7新規	②	令和7年度は県南地域のこどもを対象に文化芸術活動の場の創出と周知を図ることとしている。令和8年度は令和7年度の取組の検証を行い、次年度以降、県央、県北地域のこどもを対象に文化芸術活動の場の確保等を図っていく。	改善
		(R7新規)R7-9				
		学芸文化課				

注：「2. 令和6年度取組実績」に記載している事業のうち、令和6年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案（制度改正要望）する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点